

■コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O26)の報告があり、今年の累計は3件となりました。例年、気温が高い時期に多発する傾向にあるので、注意が必要です。

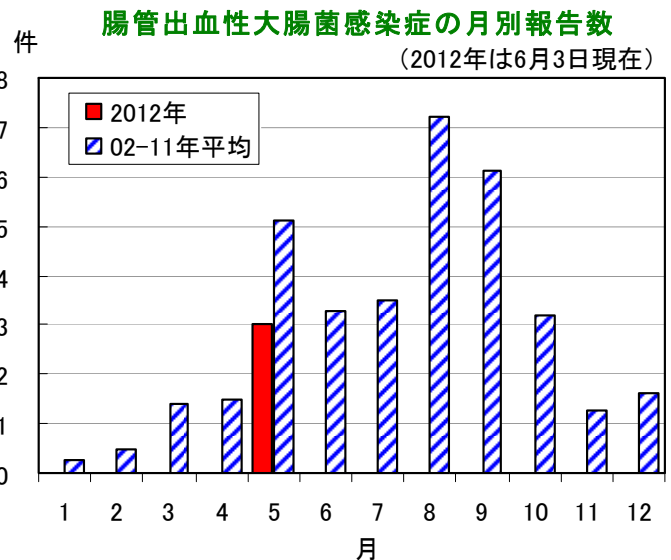
腸管出血性大腸菌感染症は、症状のないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらには重症化して溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome, HUS)を発症するものなど症状は様々ですが、子どもと高齢者は重症化しやすいので特に注意が必要です(次頁参照)。

2. 感染性胃腸炎

定点当たり7.71人と、先週と比べやや減少しました。しかし、感染性胃腸炎の集団発生が第22週に2件、第23週に1件報告され(6月4日現在速報値)、5月以降7件(うちノロウイルス3件)と多くなっています。集団生活の場では、手洗いを徹底するなど特に注意が必要です。

3. 咽頭結膜熱

定点当たり0.71人と、先週と比べ大きく増加しました。咽頭結膜熱は、「プール熱」とも呼ばれるウイルス性の感染症で、例年この時期から夏季に向けて増加しますので、今後の動向に注意が必要です。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点 当り	平 過 均 去 (注) 5 年 間	発 生 記 号	疾患名	報告数	定点 当り	平 過 均 去 (注) 5 年 間	発 生 記 号
インフルエンザ	-	-	0.17		ヘルパンギーナ	18	0.75	0.66	
咽頭結膜熱	17	0.71	0.37	↑	流行性耳下腺炎	7	0.29	0.77	
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	55	2.29	2.15		RSウイルス 感染症	4	0.17	0.01	
感染性胃腸炎	185	7.71	6.63		急性出血性 結膜炎	-	-	0.05	
水痘	49	2.04	1.76		流行性角結膜炎	9	1.13	1.05	
手足口病	5	0.21	1.47		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	5	0.21	0.48		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
突発性発しん	13	0.54	0.78		マイコプラズマ 肺炎	5	0.71	0.34	
百日咳	8	0.33	0.26		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 (小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	146	女性(20歳代)・1人、女性(30歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	男性(20歳代)・O26
5	アメーバ赤痢	1	4	男性(60歳代)・推定感染地域: 国外

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第18週 第19週 第20週 第21週 第22週	インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎
			24 15 10 1 -	3 10 9 7 17	16 20 41 39 55	146 195 176 204 185	19 38 33 34 49	1 2 1 1 5	5 6 5 4 5	3 15 12 13 13	1 6 8 6 8	6 10 15 16 18	1 4 5 5 7	2 - 2 1 4	- - - - -	6 5 5 1 9	- - - - -	- - - - -	2 6 7 4 5	- - - - -
定点 当り	広島市	第18週 第19週 第20週 第21週 第22週	0.67	0.13	0.67	6.08	0.79	0.04	0.21	0.13	0.04	0.25	0.04	0.08	-	0.75	-	-	0.29	-
			0.42	0.42	0.83	8.13	1.58	0.08	0.25	0.63	0.25	0.42	0.17	-	-	0.63	-	-	0.86	-
	全国	第20週 第21週 第22週	0.27	0.38	1.71	7.33	1.38	0.04	0.21	0.50	0.33	0.63	0.21	0.08	-	0.63	-	-	1.00	-
			0.03	0.29	1.63	8.50	1.42	0.04	0.17	0.54	0.25	0.67	0.21	0.04	-	0.13	-	-	0.57	-
	全国	第20週 第21週	-	0.71	2.29	7.71	2.04	0.21	0.21	0.54	0.33	0.75	0.29	0.17	-	1.13	-	-	0.71	-
			0.56	0.35	2.56	8.71	1.21	0.14	0.17	0.62	0.03	0.17	0.47	0.12	0.02	0.57	0.02	0.03	0.79	0.03
	全国	第21週	0.46	0.46	2.70	9.15	1.45	0.18	0.15	0.63	0.04	0.22	0.41	0.13	0.02	0.56	0.03	0.04	0.95	0.03

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐(胃腸炎)	0	女	2012/04/10	糞便	アデノウイルス41型
百日咳	上気道炎 肝機能障害 レブリーゼ	0	女	2012/05/17	咽頭拭い液	百日咳菌
百日咳	気管支炎	0	男	2012/04/19	鼻汁(拭い液)	ヒトメタニューモウイルス
その他の呼吸器疾患	上気道炎	3	女	2012/04/25	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 気管支炎	1	男	2012/04/13	鼻汁(拭い液)	RSウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.9) 上気道炎 肺炎	0	女	2012/04/24	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の疾患	先天性脳室拡大	0	男	2012/04/25	咽頭拭い液 尿	サイトメガロウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌は、経口感染がほとんどで、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して感染します。熱には弱いですが、感染力が強くわずか数十個でも感染すると考えられています。

予防のために次のことに特に注意しましょう。

- 手洗いを励行しましょう。
- 肉・レバーなどはよく加熱し、生食は控えましょう。
- 焼肉の時は、生肉を取るはしと食べる時に使うはしを別々にしましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。
- 乳幼児のオムツの取扱には十分注意しましょう。
- 簡易プールを介して感染することも考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2012年第22週(5月28日～6月3日)